

甲 第 号

上村 貴之 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	笠原 正登
論文審査担当者	委員	教授	室 繁郎
	委員(指導教員)	教授	鶴屋 和彦

主論文

Association of triglycerides to high-density lipoprotein cholesterol ratio with incident cardiovascular disease but not end-stage kidney disease among patients with biopsy-proven diabetic nephropathy.

糖尿病性腎症における TG/HDL-C 比と心血管疾患および腎予後との関連

Takayuki Uemura, Masatoshi Nishimoto, Masahiro Eriguchi, Hiroyuki Tamaki,
Hikari Tasaki, Riri Furuyama, Fumihiro Fukata, Takaaki Kosugi, Katsuhiko Morimoto,
Masaru Matsui, Ken-Ichi Samejima, Kazuhiko Tsuruya
Hypertension Research 2023 Jun;46(6):1423-1432.

論文審査の要旨

申請者は、腎生検が行われた糖尿病性腎症 353 例を対象に、TG/HDL-C 比と心血管および腎予後の関係について後ろ向き観察研究（観察期間中央値 6.2 年）で検討し、TG/HDL-C 比が心血管疾患の発症と有意に関連する一方で、末期腎不全の発症や腎病理とは関連しなかったことを報告し、脂質代謝異常が腎臓に与える影響は大血管への影響よりも小さい可能性について示唆した。

公聴会での発表は、研究の要点が要領よくまとめられており、非常にわかりやすかった。質疑応答においては、腎予後に関連性がみられなかったのはイベント数が少なかったからではないかという質問に対し、その可能性は高く、もっとステージの進行した慢性腎臓病患者を対象にするか観察期間を長くすると腎予後との関連性が出てくるかもしれないと的確に回答した。治療による影響は考えられるかという質問に対して、現在の診療であれば SGLT2 阻害薬が投与されるのが一般的であるが、本研究ではほとんど投与された患者はいなかったと的確に回答した。その他、今回の結果が日本人特有の結果かどうかについては、あまり人種による影響ではないと思われること、TG/HDL-C が単なるマーカーか原因かについては、マーカーと考えられるが、原因となっている可能性も否定できないこと、心・腎のイベントへの影響が異なった理由については、腎障害における脂質異常症の影響が少ないことが一因と考えられると回答した。

以上より、主論文の内容と公聴会での発表・質疑応答、参考論文と併せて、審査委員すべてが適と判断し、医学博士の学位に値する研究であると考えます。

参 考 論 文

1. Renal histological continuum of TAFRO syndrome: A case report and literature review.

Uemura T, Matsui M, Kokubu M, Samejima KI, Tsuruya K. Clin Nephrol 2022 Feb;97(2):121-128.

2. Utility of serum β 2-microglobulin for prediction of kidney outcome among patients with biopsy-proven diabetic nephropathy.

Uemura T, Nishimoto M, Eriguchi M, Tamaki H, Tasaki H, Furuyama R, Fukata F, Kosugi T, Morimoto K, Matsui M, Samejima KI, Tsuruya K. Diabetes Obes Metab 2024 Feb;26(2):583-591.

3. Height loss is associated with decreased kidney function: The Japan Specific Health Checkups (J-SHC) Study.

Kosugi T, Eriguchi M, Yoshida H, Uemura T, Tasaki H, Fukata F, Nishimoto M, Matsui M, Samejima KI, Iseki K, Fujimoto S, Konta T, Moriyama T, Yamagata K, Ichiei N, Kasahara M, Shibagaki Y, Kondo M, Asahi K, Watanabe T, Tsuruya K. Geriatr Gerontol Int 2023 Apr;23(4):282-288.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに腎臓病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年3月5日

学位審査委員長

臨床実証医学

教授 笠原 正登

学位審査委員

呼吸器病態制御医学

教授 室 繁郎

学位審査委員(指導教員)

腎臓病態制御医学

教授 鶴屋 和彦